

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 48 号 (2008年)

目 次

同窓会長挨拶	伊豫屋偉夫 (昭41)	1
薬学部長挨拶	畑山 範	2
下村 脩博士 ノーベル化学賞受賞記念特集		4
伊豫屋偉夫 (昭41), 河野信助 (昭17), 古川 淳 (昭25), 谷口順一 (昭10), 阿部道夫 (昭26), 高月 潔 (昭26), 成田敬子 (昭26), 成澤哲夫 (昭26), 西川恭夫 (昭26), 森田幸枝 (昭26), 河田啓次 (昭26), 野田庸二郎 (昭28), 服部俊明 (昭28), 細川真理子 (昭29), 原口保雄 (昭29), 川上萬里 (昭30), 黒岩幸雄 (昭30), 高柳一成 (昭30), 郷野美智子 (昭30), 森田 勉 (昭30), 今泉貴世志 (昭31), 熊本公子 (昭33), 大城清吉 (昭33), 山本妙子 (昭33), 高田 統 (昭33), 角田正之 (昭33), 日高喬子 (昭33), 浦山日出夫 (昭34), 松尾幸子 (昭34), 富安一夫 (昭34), 小川満子 (昭35), 荒川安子 (昭35), 井上明子 (昭35), 黒田 誠 (昭36), 白松一良 (昭36), 林田匡代 (昭36), 池田修一 (昭37), 松田芳郎 (昭37), 井口博太郎 (昭38), 小倉敏弘・土田拓生 (昭38), 小林龍二 (院昭55), 河浪梨恵 (平14), 森 歩美 (学部4年)		
平成20年度長薬同窓会総会・懇親会		42
平成21年度総会案内		43
支部だより		44
関東支部, 近畿支部, 広島支部, 山口支部, 四国支部, 北九州支部, 福岡支部浦陵会, 長崎県北支部, 島原支部, 熊本支部, 宮崎支部日向浦陵会, 鹿児島支部, 長崎支部ぐびろ会		
クラス会および近況だより		60
田中 隆 (特), 服部俊明 (昭28), 鈴木隆之介 (昭28), 黒岩幸雄 (昭30), 飯島佐枝子 (昭32), 藤島一薫 (昭36), 平 季久 (昭37), 青木 郁 (昭38), 江藤好信 (昭40), 富永義則 (昭44), 和泉 喬 (昭45), 松尾 泉 (昭46), 松本逸郎 (昭47), 西垣敏明 (昭47), 森重徹洋 (昭48), 橋本 覚 (昭52), 山口正弘 (昭56), 富田 守 (平2), 平良文亨 (平9)・福留 誠 (平10)・今村朋史 (平11), 福留 誠 (平10), 大山 要 (平12), 寺師綾子 (学部4年), 小森宏太郎 (学部3年), 伊藤 潔 (昭59)		
クラブOB会だより		96
野球部, 硬式庭球部		
庶務報告		100
物故者氏名, 学内記事		100
長薬同窓会役員名簿		103
長薬同窓会支部一覧		104
会計報告 (平成19年度決算, 平成20年度予算, 監査報告)		105
同窓会事務局だより		表III
編集後記		表III



同窓会長挨拶

会長 いよや ひでお
伊豫屋 偉夫 (昭41)

平成20年6月7日長崎市で開催されました平成20年度長薬同窓会総会で2期目の会長を仰せつかりました昭和41年卒の伊豫屋偉夫です。今後2年間、長崎大学薬学部および長崎大学全学同窓会と一体となって、長薬同窓会のさらなる発展のために頑張って参りますので、ご協力をよろしく願います。

北九州市小倉で開催されました平成18年度長薬同窓会総会で会長に選任されて以来2年が経過しますが、その間、各支部長さん、学年理事さん、副会長並びに幹事の皆さん、そして多くの会員の皆様のご協力を得ながら、長薬同窓会の発展と会員皆様の交流促進に努めてきましたが、お蔭様で、各支部で総会を開催していただき、先輩・後輩の交流を図ることが出来ました。また、学年ごとにクラス会も開催していただき、同期の交流も図っていただきました。

毎年、8月には長崎市坂本町のグビロが丘の原爆慰霊碑周辺の清掃の実施、医学部主催の原爆犠牲者慰霊祭への参加、11月には諫早市の小野島校舎記念碑の清掃の実施、3月には長崎大学卒業式に参加をし、卒業生に臆の言葉を述べるとともに、同窓会への参加、協力をお願いしました。12月には皆様からいただいた原稿をもとに会報を編集し発行するとともに、昨年は3年に1度発行している会員名簿を皆様に送らせていただきました。

現在、同窓生は全国に約4,300名おられ、各地で

いろいろな職業についておられます。同窓会は各地で活躍している同窓生の情報交換の場であると思います。是非、同窓会総会に出席し、また学年ごとのクラス会に出席し、毎年発行しています同窓会会報に原稿を提供し、情報を交換していただきたいと思います。特に、ここ数年総会を開催していない支部の皆様、総会を開催し交流を図りましょう。

今年は、10月に昭和26年卒で米国在住の下村脩博士がノーベル化学賞を受賞、文化勲章を受章、文化功労者に決定のニュースが、11月に昭和25年卒で元長薬同窓会会長の古川 淳名誉教授が秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章のニュースが飛び込み、長薬同窓生としましては大きな喜びと誇りを授かり、記念すべき年になりました。両先輩のこれまでの研究への取り組みとご尽力に敬意を表すると共に、今後益々のご活躍を祈念いたします。

長薬同窓会のホームページも伊藤 潔会計幹事の全面的なご協力により、同窓会に関する最新の情報を提供していますので、必ず「長薬同窓会」でアクセスしてみてください。

長薬同窓会は会員皆様の会費と参加によって成り立っていますので、会費の納入並びに総会への積極的な参加をよろしく願います。

最後になりましたが、長薬同窓会のますますの発展と会員皆様のご健勝、ご多幸、ご繁栄を祈念し、2期目のご挨拶といたします。



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 はたけ
畑 山 すずみ
すずみ 範

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。昨年4月に学部長の職を拝命して一年半があつという間に過ぎました。まず、就任早々薬学部にとって大変悲しい出来事がありました。それは松村功啓先生の突然のご逝去であります。今、あらためて、学部運営において発揮された松村先生の行動力とリーダーシップに敬服しているところであります。一方で、この上ない嬉しい出来事もありました。それは、つい先日、10月8日の「下村 脩先生(昭26)、2008年ノーベル化学賞受賞決定」の一報であります。ノーベル賞受賞は薬学出身者では初めてのことであり、また地方大学出身者の受賞としても初めてであります。下村先生の母校長崎大学に在職する一人として、先生の受賞は大変喜ばしく、また誇らしいものであり、心からお祝いを申し上げます。10月8日、この偉業を称えるため、薬学部は長薬同窓会との連盟でお祝いの懸垂幕を設置しました。同時に、学生ならびに教員が、毎朝、玄関でこの垂れ幕を仰ぎ見、下村先生がかつて学び、勤めた同じ薬学部に通学する者、勤める者としての誇りを感じ、高い志をもって勉学と教育、研究に一層励むきっかけになればとの思いから懸垂幕を設置しました。

学部長就任以来、最も力を入れて取り組んできましたのは、平成18年度からスタートしました薬学6年制であります。「長崎大学薬学部卒」の良い意味でのブランド化を目指し、質の高い薬剤師を社会に送り込むことを教育目標に上げております。平成21年度の後期から始まりますCBTやOSCEや事前実習に向けて、昨年からはよいよトライアルも始まりました。これから予定されているトライアルにおきましても、皆様の貴重なご意見を是非取り入れさせていただき、学生にとってより良い教育システムとなるように教職員一同努力して

いく所存でおります。平成22年度からは実際に6年制の学生が実習で皆様のお世話になります。何卒、薬学6年制教育の円滑な実施にむけて、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

一方、長崎大学薬学部は、上記の6年制課程の薬学科に加え4年制課程の薬科学科を併置しております。その薬科学科では、「薬や環境に関わる研究者や技術者の養成」を教育目標としておりますので、その先に続く大学院教育と一貫した教育システムの構築が急務であります。現在、平成22年度からの新たな大学院博士前期課程の設置に向けて、創薬研究に強い意欲を持つ学生を育て、将来、研究者、技術者として活躍できる人材を多く輩出できるよう、新たにその枠組みやカリキュラム等を検討しているところであります。

最後に、一部この会報の「学内記事」にも記載されておりますが、この1年半での主な異動について報告いたします。まず、「離島・僻地医療に貢献できる薬剤師の養成教育プログラム」に関連して、昨年5月に医療情報解析学の中嶋弥穂子助手(院昭61)が准教授に就任し、その1ヶ月後から荒木良介助教(院平18)が新たに着任しました。また、昨年8月には、薬物治療学の鈴木啓司准教授が原爆後障害医療研究施設准教授に配置換えとなり、同じく薬物治療学の小林 奨助教が附属病院医員に転職されました。さらに、昨年12月には、衛生化学の小野正博助教が京都大学薬学部准教授として転任しました。本年1月には、松村先生の後任として尾野村 治准教授が医薬品合成化学の教授に昇任し、医歯薬学総合研究科が推進している「感染症創薬研究推進拠点形成」のテニユアトラック事業に関連して大山 要助教(平12)が着任しました。3月には、18年の長きにわたり研究、教育において薬学部を牽引していただいた薬化学の藤田佳平衛教授が定年を迎えられ、ご退職

しました。藤田先生には、学部長として薬学部の組織運営にも重責を担っていただきました。続いて、4月には、附属薬用植物園の出水庸介助教が医薬品合成化学に配置換えとなり、分子薬理学の井上 誠講師（博平9入）と薬品分析化学の岸川直哉講師（平10）がそれぞれ准教授に昇任し、薬物治療学の近藤新二准教授と医療情報解析学の池田理恵助教（平13）が新たに加わりました。そして、この10月から、藤田先生の後任として九州大

学薬学部から田中正一教授が着任し、薬化学研究室を主宰しております。このように、長崎大学薬学部では人事異動が活発に行われております。このことは教育と研究の活性化にとって非常に好ましいと思われま

す。以上、長崎大学薬学部の現況を簡単に述べさせて頂きましたが、同窓会の皆様には、薬学部のさらなる発展に向けて、これまでと変わらず御支援、御高配を賜りますようお願い申し上げます。



薬学部正面玄関